

## 保育所の自己評価

令和6年度・西原ほほえみ保育園

保育所保育指針には、「保育士等は保育の計画や保育の記録を通して自らの保育実践を振り返り、自己評価することを通してその専門性の向上や保育実践の改善に努めなければならない」と記されています。そのことを踏まえ、労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 西原ほほえみ保育園において、全職員を対象として自己評価を実施しました。

以下の項目に沿って自らの保育等を振り返ることを通して、より良い保育に繋げて頂くことを目的としています。評価の結果を踏まえ、今後もより良い保育を実施していけるよう努力していきます。

〈評価について〉評価にあたっては、以下のような基準で行いました。

- |                 |                     |
|-----------------|---------------------|
| A：十分わかる、十分できている | B：おおむねわかる、おおむねできている |
| C：あまり分らない、やや不十分 | D：ほとんど分らない、改善を要する   |

〈実施期間〉2025年1月14日～2月14日

\*1 協同労働の子育ち指針 別紙参照

\*2 西原ほほえみ保育園の理念・方針・目標

### 保育理念

- ・子ども、保護者、地域と共に育ち育てる保育園をめざします
- ・一人ひとりの子どもの思いや願いに寄り添い、子ども理解を深めるための学びを大切に、職員みんなで考え対応します
- ・平和を守り、子どもの命を守り、子どもの最善の利益と人間性の全面発達を願い、様々な人と協力・協同していきます

### 保育方針

- ・心豊かで生きる力のある子どもを、保護者・地域の人たちと共に育てる

### 保育目標

- ・心身ともに元気で感性が豊かな子
- ・賢さ、たくましさ、好奇心が豊かな子
- ・やさしく思いやりがあり、自分らしくふるまえる子

## 【第1章】総則

### (1) 保育所保育に関する基本原則

保育所の役割	①子どもの最善の利益を理解し、人格尊重を意識して保育を行っている。	A
目標	①協同労働の子育ち指針*1を、年度初め等に職員で確認している。	C
	②西原ほほえみ保育園の理念・方針・目標*2を、年度初め等に職員で確認している。	C
	③西原ほほえみ保育園の保育目標を、保護者などに見やすい場所に掲示したり、園だよりなどで周知したりしている。	B
保育の方法	①子ども一人ひとりの特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した援助を行うよう心掛けている。	A
	②子どもの主体的な活動を促し、意欲を持って遊べるような援助を心掛けている。	A
環境	①健康的に過ごせるよう、保育活動の配分に気を付けている。	B
社会的責任	①個人情報適切に扱い、保護者の苦情に対し解決を図るよう努めている。	A

〈職員コメント抜粋〉

- ・園の目標やスローガンを、もう少し保護者に分かりやすく伝えていく努力をしたい

(2) 養護に関する基本的事項

養護の理念	①養護と教育を一体的に行うことを意識して保育にあたっている。	B
	②『養護』は生命の保持と情緒の安定で構成され、『教育』は健康、人間関係、環境、言葉、表現の5領域から構成されていることを理解している。	B
生命の維持	①一人ひとりの健康状態や発達について把握し、異常に気付くことができる。	A
	②生理的欲求が十分に満たされるようにしている。	A
情緒の安定	①子どもの気持ちを理解し、信頼関係を築くよう心掛けている。	A
	②自分の思いや意見をはっきり伝えることができるように配慮し、尊重している。	A

(3) 保育の計画及び評価

全体的な計画の作成	①全体的な計画の作成には、職員が参加している。	B
	②長期的な見通しを持った計画を立て、職員で共有している。	B
指導計画の作成	①日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている。	B
	②各年齢の子どもの発達状況に配慮した指導計画となっている。	B
	③日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を作成している。	B
	④3歳未満児は、一人ひとりの子どもの発達状況、保育計画、生活状況について作成している。	B
	⑤子どもが主体的に活動できるよう環境設定している。	B
	⑥長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している。	B
指導計画の展開	①子どもの実態や状況の変化に応じて、見直しや改善を行っている。	B
評価改善	①園全体としての評価を行い、全職員の共通理解のもと改善に努めている。	B
<p>〈職員コメント抜粋〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の保育会議で、月案を出して子どもの様子などを全体で共有できているのは良い事だが、じっくり話し合う時間が少ないので、クラスの悩み事なども含め全体で話し合える時間が持てるようになるともっと良い</li> <li>・会議でクラスの話をする場はあるが、掘り下げて意見交換をする時間が持てていないので、そこを改善していきたい</li> </ul>		

(4) 幼児教育を行う施設として共有すべき事項

資質能力	①育みたい資質、能力を理解している。	B
	②長期的な見通しを持った計画を立て、年齢ごとに必要な経験の機会を与えている。	B
姿	①『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を理解して計画を立て、保育にあたっている。	C

【第2章】保育の内容

(1) 乳児保育に関わるねらい及び内容

基本的事項・ねらい及び内容	①離乳食については、家庭や調理員、栄養士と連携を取りながら、一人ひとりの子どもの状況に配慮して行っている。	A
	②一人ひとりの生活リズムに合わせて、睡眠をとることができるよう静かな空間が確保されている。	B
	③午睡中は体を仰向けにすることを意識して、体温・顔色・呼吸の安全チェックをしている。	A
	④生活や遊びの中で様々なものに触れるようにし、音・形・色・手触りなどに気づき感覚の働きを豊かにしている。	B

	⑤発育に応じて、這う・立つ・歩くなど体を動かす楽しさを十分に経験できるようにしている。	A
	⑥オムツの交換、授乳などのサインを見逃さず受け止め、対応している。	B
	⑦発声や喃語を優しく受け止め応えることで、言葉の理解や発語の意欲を育てている。	A
	⑧誤飲、転倒など重大事故につながらないように安全環境に配慮している。	A
保育の実践に関わる配慮事項	①特定の保育士との継続的な関りが保てるよう配慮している。	B
	②乳児保育に関わる職員間の連携を図り、専門性を活かした対応を行っている。	B

(2) 1歳児以上3歳児未満児の保育に関わるねらい及び内容

健康	①生活リズムについては、一人ひとりの子どもの状態に合わせて対応している。	B
	②走る・跳ぶ・登る・押す・引っ張るなど全身を使う遊びを取り入れている。	A
	③楽しい雰囲気の中で自分で食べようとする気持ちを大切にしている。	A
	④身の回りを清潔に保つ心地良さを感じ、その習慣が少しずつ身につくよう援助している。	A
	⑤子どもが自分で衣服を着脱しようとする気持ちを尊重している。	A
	⑥一人ひとりの排泄状況に応じた配慮をしている。	A
人間関係	①保育士等との安心した関わりの中で園生活を送れるようにしている。	A
	②他の子どもとの関わり方を少しずつ身に付けられるよう仲立ちをしている。	A
	③自分の思いを伝えたり、相手の思いに気づいたりする経験を重ねていけるよう援助している。	A
環境	①玩具や遊具は安全で、子どもの興味や発達にあったものを選び使用させている。	A
	②積極的に戸外遊びを取り入れて身体の発達を促している。	A
	③見る、聞く、触れるなどの感覚の働きを豊かにしている。	A
言葉	①楽しい雰囲気の中で保育士等との楽しい言葉のやり取りができるようにしている。	A
	②絵本の読み聞かせや紙芝居などを積極的に取り入れている。	A
表現	①水・砂・土・紙・粘土など様々な素材に触れて楽しませている。	B
	②音楽・リズムなどに親しみ、歌や手遊び、全身を使う遊びを取り入れている。	A
	③子どもの表現をしっかり受け止め、共感している。	A
保育の実態に関わる配慮事項	①体の状態、機嫌、食欲など日常の状態の観察を十分に行うことで感染症を予防している。	A
	②事故防止に努めながら様々な遊びを取り入れている。	A
	③進級などで保育士が変わるときは、子どもの発達に留意し職員間で協力して対応している。	B

(3) 3歳児以上児の保育に関するねらい及び内容

健康	①生活に必要な基本的な習慣や態度が身につくよう保育している。	A
	②食べる喜びや楽しさを味わいながら、食べ物への興味や関心を持てるようにしている。	A
	③十分に体を動かす気持ちよさを体験し、自ら体を動かそうとする意欲が育つよう援助している。	A
	④園内外の危険な場所を知り、安全に気を付けて遊ぶように働きかけている。	B
人間関係	①友だちと共通の目的を見つけたり、遊びを一緒に工夫・協力して共に達成感が味わえるように働きかけている。	A
	②良い事や悪い事があることに気づき、考えながら行動できるように援助している。	B
	③友だちと生活する中での決まりの大切さに気づき、守れるように配慮している。	A

	④生活や遊びの中で意欲を大事にして頑張ろうとする力、自信、自己肯定感を持てるような言葉掛けや援助をしている。	B
	⑤身近な友だちとのかかわりを通して、相手を思いやり譲り合う気持ちを持てるように援助している。	B
環境	①園生活の中で、数量や図形、文字に触れる機会を取り入れている。	B
	②伝統行事や異なる文化に触れる機会を作っている。	B
	③自然と直接触れ合う遊びを季節に合わせて取り入れている。	C
言葉	①人の話を聞くことができ、日常生活に必要な挨拶や会話を身に付けさせている。	B
	②絵本や紙芝居などを通して、物語の美しさや言葉の面白さに気付くよう心掛けている。	B
	③子どもが自分の経験や要求を自分なりに表現できるように配慮している。	B
表現	①音楽に親しみ、歌を歌ったり、踊ったり、リズム楽器を作ったりする楽しさを味わう機会を作っている。	B
	②一人ひとりの子どもの表現の過程を大切に、自己表現を楽しめるよう心掛けている。	B
配慮事項	①『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』を理解して保育にあたっている。	B

(4) 保育の実施に関して留意すべき事項

保育全般に関わる 配慮事項	①一人ひとりの子どもの心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえ、気持ちを受け止め援助している。	B
	②子どもの国籍や文化、性差、個人差に配慮している。	A
	③子どもが安心感を持ち、生活できるよう配慮している。	A
小学校との連携	①小学校との意見交換や合同の研修の機会などを設けて情報共有や連携を図っている。	C
	②子どもにおける情報共有に関して、保育所児童要録を作成している。	B
地域社会との連携	①ボランティアや保育体験の人々を受け入れている。	B
	②保育園での活動に地域の力を借りたり、地域での活動に力を貸したりしている。	A

〈職員コメント抜粋〉

- ・他園との交流（5歳児）が増えたことが良かった（タグラグビーや、他園の新年こども会への参加など）
- ・小学校との連携は、内容は知っているが、年長クラスを受け持っていないので、自身は実践はしていない

【第3章】健康及び安全

(1) 子どもの健康支援

健康 発達	①子どもの健康情報を共有し、子どもの既往症（アレルギー・熱性けいれん・脱臼癖・喘息など）について、全職員に周知するとともに、その発生時の対応を行っている。	A
	②不適切な養育の兆候や虐待が疑われる場合には、関係機関と連携対応している。	A
健康増進	①健康診断と歯科検診の結果について、保護者や職員に伝達している。	A
	②保育計画や保健計画に基づき、全職員がねらいや内容を踏まえ、子どもの健康の保持や増進に努めている。	B
疾病等への対応	①アレルギー疾患、慢性疾患等を持つ子どもに対し、主治医からの支持を得て、適切な対応を行っている。	A
	②アレルギー疾患を持つ子どもに対し、栄養士・調理員と連携を持ち、個々に合わせた対応を行っている。	A

(2) 食育の推進

保育所の特性を生かした食育	①乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、給食について見直しや改善をしている。	A
	②乳幼児に身に付けておきたい挨拶や姿勢、食具の持ち方など食事のマナーを伝えている。	A
	③展示食で年齢に適した食材の量や形状を保護者に知らせている。	A
環境整備	①子どもが栽培・収穫したものや調理したものを食べる機会をつくるように心掛けている。	A
〈職員コメント抜粋〉 ・給食試食会や、世界の郷土料理の取り組みができてよかった		

(3) 環境及び衛生管理並びに安全管理

環境及び衛生管理	①園内の清掃がなされ、清潔に保たれ、子どもが心地良く過ごせるよう配慮している。	A
	②生活の場面にあった保育士の声、音楽など音に配慮している。	B
	③園内に子どもたちが季節感を味わえるような工夫をしている。	A
	④子どもが活動しやすいように保育室の温度、湿度、換気、採光などに配慮している。	A
事故防止及び安全対策	①ヒヤリハットを共有し事故防止に努めている。	A
	②睡眠中、水遊び中、食事中などの場面で重大事故が発生しやすいことを認識し、事故防止に努めている。	A
	③外部からの侵入に対し、マニュアルに沿った動きがとれる。	B

(4) 災害への備え

安全確認	①消火器、火災受信機、配電盤の設置場所が分かり、操作方法を知っている。	B
	②施設の安全点検を行い、改善している。	B
避難への備え	①様々な災害を想定した避難訓練を行っている。	A
	②保護者との連絡体制や引き渡し方法が確認されている。	A
	③非常用持ち出し袋（散歩用リュック含む）の中身を定期的に点検している。	B
連携	①地域や地域の関係機関と連携を図り、協力が得られるように努めている。	A
〈職員コメント抜粋〉 ・定期的に行うことで、子どもたちも経験が積み重なり、落ち着いて行動できている		

【第4章】子育て支援

(1) 保育所における子育て支援に関する基本事項

支援と留意事項	①保育士は日常、保護者や子どもの様子を注視し、虐待の予防や早期発見に努めている。	A
	②保護者が、子育ての悩みや心配事を安心して話せる存在になるよう心掛けている。	A

(2) 保育所を利用している保護者に対する子育て支援

保護者との相互理解	①送迎の際の対話や連絡帳への記載などの日常的な情報交換に加え、別に機会を設けて相談に応じたり個別面談を行ったりしている。	A
	②家庭の状況や保護者との情報交換が、必要に応じて関係職員に周知されている。	B
	③あらかじめ年間行事の日程を知らせ、保護者が保育参加の予定を立てやすくしている。	A
	④「園だより」や「クラスだより」を定期的に発行している。	A

(3) 地域の保護者に対する子育て支援

地域の子育て支援	①地域における子育て支援を実施し、地域の子育て支援ニーズを把握するよう努めている。	C
	②子育て支援の情報提供や育児相談ができる体制が整っている。	C
連携	①子どもの医療や保健に関する問題について、連絡・相談する外部の関係機関を把握している。	B

【第5章】職員の資質向上

(1) 職員の資質向上に関する基本事項

保育所職員の求められる専門性	①相手の立場に立った挨拶、電話、来客対応ができています。	A
	②自己の健康管理ができています。	A
	③保育業務の中で知り得た子どもや家庭に関する秘密の保持について、全職員に周知し、守られている。	A
	④保護者や地域の人からの相談事項について、プライバシーの保護、話された内容の秘密保持を徹底し、守られている。	A
質の向上に向けた組織的な取り組み	①業務遂行にあたって、正確、迅速かつ、報告・連絡・相談を実践している。	B
	②仲間との情報共有と建設的な話し合いを大事にし、時に折り合うことも意識し、「みんなで決めたことを、みんなでやる」ということを実践している。	B
	③公平に人の話を聞いたり、話をしたりでき、正確に伝達できている。	B
	④問題意識を共有しながら職員間で共通理解し、協力している。	A

(2) 職員の研修等

研修活用	①園内研修を行っている。	A
	②各職員について、適切な研修機会の確保を行っている。	B
	③研修に参加した職員から、参加できなかった職員へ向けた共有がされている。	B
〈職員コメント抜粋〉 ・小児救命講習、子どもの人権について等の園内研修が実施できた		

【園全体での評価】

- ・園の方針などは、入園前に保護者にお渡しする“しおり”には記載があるが、職員全体で確認をする時間をあまり持てていなかった。
- ・クラスでの保育については、各クラスの保育士たちが、子どもを真ん中において考え、工夫をしながら実践していることが自己評価から分かった。
- ・コロナ禍の2020年に開園したこともあり、これまでなかなかできなかった地域での活動を、今年度は取り組むことができた。園を知ってもらうために、地域のふるさとまつりに参加したり、借りている建物のガールスカウト連盟と一緒に、地域の親子向けのイベントの開催も、ようやく実現できた。
- ・昨年度に引き続き、保護者とも交流の持てるよう行事を企画できた。
- ・園内研修として、「小児救命」と「子どもの人権」についてを実施し、みんなで一緒に同じ学びの時間を共有できたことで、同じ視点を持って仕事ができる土台をつくることができた。
- ・不審者訓練の回数が少ないため、マニュアルの理解をすることに課題がある事が分かったので、次年度は検討したい。
- ・地域の保護者に対する子育て支援が全体的に課題がある事が分かったので、何か取り組めることがあるか検討したい。